

ふもと 織姫山の麓から

法玄寺報
第56号
令和7年秋
(2025年)

鐘楼の再建 木組みが完成

皆様もご存じのように、鐘楼の再建を進めております。寄付についても多くの檀家の方から協力をいただき誠にありがとうございます。

古い鐘楼は6月中旬から解体工事を始め、6月末には解体を終えました。先の大戦において供出を免れた鐘は、施工を担当する赤石建設が養生をしてクレーンで吊り下げて運び出し、建設会社にて大切に保管しております。

7月中旬から再建の工事に着手して、まず鉄筋コンクリートの基礎を作りました。お盆の期間中は、檀家の方々が駐車しやすいよう一時工事を中断しましたが、お盆の後石工事に着手しました。各地で40度を超える猛暑が続きましたが、石工事の職人さんたちは仕事を続け、秋のお彼岸前には石工事が終了しました。

10月からいよいよ木工事に着手しました。木工事を行うために、まず足場を作りました。その後クレーンを使い、丸い主柱と両脇で支える2本の四角の添え柱を四隅に配置しました。柱が組みあがるとその上に入母屋の木組

みを作り、棟も上がりました。これから垂木を四方に渡すと、ようやく鐘楼らしい姿を表します。工事は順調に進み、十一月末には棟上げ式を行う予定です。



木工事も進み、来月には上棟式を行います

能の夕べ

今年も恒例の秋の行事である百万遍修行を本堂で行い、引き続き能の夕べを開催しました。

能の夕べでは、檀家の縁者で能楽師の和久莊太郎さんと仲間の葛野りささん、上野能寛さん、それと莊太郎さんのご子息の和久凜太郎さんが出演しました。最初に上野能寛さんと和久凜太郎さんの謡に合わせて和久莊太郎さんが舞を演じました。

つづいて、能装束を付けた葛野りささんが3人の謡に合わせて舞いました。演ずるのは乱(みだれ)という演目の中の猩々(じょうじょう)という部分でした。参加者は、能装束に能面と赤く染めた長い髪を身にまとった葛野りささんの荘重な舞に見入っていました。

なおチャリティーを行い、三三、九八〇円集まりました。



能装束による能の舞い

能装束の着付けを披露

葛野りささんが謡に合わせて舞う前に、能装束の付け方を和久莊太郎さんが紹介してくれました。普段楽屋で見られない貴重な着付けの様子を、集まった人たちは興味深そうに見ていました。

能装束の着付けは大掛かりで、3人の人たちが葛野さんを囲むようにして集まり、最初に着物が傷まないように長襦袢のようなものを着せます。次に赤い生地を着物の着付けをします。さらにその上に、金襴の豪華絢爛な羽織りを付けます。

こうして装束が整ったら、赤く染めた腰まで届く長いカツラを頭に取り付けます。最後に能面を付けてようやくすべての装束が付け終わります。

このような何枚もの着物を身に付けて舞い、さらには謡まで行うのですから、能楽師になるには長年の修行が必要になるのは当然であると思いました。



3人で能装束を付けます

栗田美術館のクラウドファンディング

檀家の栗田俊英さんはお父さんが設立した、伊万里・鍋島の作品を展示する栗田美術館の館長を務めています。

美術館で展示する伊万里・鍋島の作品の中には貴重な文化財も多く含まれます。しかしながら作品によっては長い歴史の中で損傷したものもあり、その修復が大きな課題でした。



栗田美術館ではクラウドファンディングを行っています

このたび、クラウドファンディングを行い、広く浄財を募集することにより貴重な伊万里・鍋島の文化財を修復することになりました。日程は、10月15日（水）から開始して12月12日（金）までです。皆様の協力をお願いします。パソコンやスマホで『栗田美術館レディーフォー』を検索すると、クラウドファンディングに参加することができます。

FMラジオに定期出演

昨年、足利にFMラジオ局ができました。大日の太鼓橋に続く参道沿いにある土産物屋の中にスタジオがあります。実は私も出演しています。毎週金曜日の4時から、足利初の真打の落語家である三遊亭歌橋さんのワンダフルラジオがあり、私も月に1回出演しています。作曲家でバイオリン奏者の深井淳さんと歌手のいせやともかさんと一緒に参加しています。

この番組では、歌橋さんを中心に4人でトークショーを行い、その後「なぞかけばとる」になります。これは落語で定番の「○○とかけて、△△と解く、その心は□□」を出演者が行うものです。なおスマホでFMプラをダウンロードすると聞くことができます。皆様もぜひお聞きください。



月に1回、金曜日の4時から三遊亭歌橋さんのワンダフルラジオに出演しています

深井淳さんのチャリティーコンサート

檀家の深井淳さんは、バイオリン奏者で作曲もしています。このたび作詞も手掛け、深井さんが作詞作曲した歌を足利で活躍している歌手のいせやともかさんが歌うCDを発表しました。

去る10月19日（日）の午後4時から、本堂で深井さんといせやさんによるチャリティーコンサートを開催しました。

最初に深井さんが自ら作曲した作品を、BGMに合わせバイオリンで演奏しました。つづいて深井さんがバイオリンを弾き、いせやさんが歌いました。バイオリンの美しい音色といせやさんの澄んだ歌声が秋の本堂に響き渡り、来た方々は荘厳な本堂のコンサートに聞き入っていました。

演奏後はCDを販売して、売り上げの一部を子供食堂に寄付しました。



深井さんのチャリティーコンサートには歌手のいせやともかさんも出場しました

宮本稲荷の上棟式

檀家の宮本武さんが、実家の敷地に宮本稲荷を作ることになりました。宮本さんはエムテックと言うT関係の企業を東京に設立しました。宮本さんは足利市の出身で、通り4丁目に実家があります。

宮本さんは故郷の足利を少しでも元気にしようと考えた結果、北仲通りの生家に霊験新たなお稲荷様があることに気づき、宮本家の歴史を地元の皆様に知ってもらいたいということもあり宮本稲荷を建立することを決意しました。先日宮本夫妻と建設会社の関係者とともに、住職と副住職が上棟式を行いました。

宮本家は明治の初期に織物会社を経営していました。また足利銀行の創設の際に尽力して、足利銀行の社史にも名前を残しています。このため歴史的に貴重な文物を残しており、宮本稲荷には本殿とともに収蔵庫もあります。



宮本稲荷の上棟式